

要 請 書

平成28年10月27日

厚木基地騒音対策協議会

厚木基地騒音対策協議会

会員

神奈川県知事	黒岩祐治(会長)
横浜市長	林文子
相模原市長	加山俊夫
藤沢市長	鈴木恒夫
茅ヶ崎市長	服部信明
大和市長	大木哲
海老名市長	内野優
座間市長	遠藤三紀夫
綾瀬市長	古塩政由
町田市長	石阪丈一

神奈川県議会議長	森正明
神奈川県議会議員	藤代ゆうや
神奈川県議会議員	京島けいこ
神奈川県議会議員	谷口かずふみ
神奈川県議会議員	菅原直敏
神奈川県議会議員	藤井克彦
神奈川県議会議員	楠梨恵子
横浜市会議長	梶村充
相模原市議会議長	阿部善博
藤沢市議会議長	佐藤春雄
茅ヶ崎市議会議長	青木浩
大和市議会議長	菊地弘
海老名市議会議長	森下賢人
座間市議会議長	伊田雅彦
綾瀬市議会議長	青柳慎
町田市議会議長	佐藤伸一郎

顧問

衆議院議員
衆議院議員
衆議院議員
衆議院議員
衆議院議員
衆議院議員
衆議院議員
衆議院議員
参議院議員
参議院議員
参議院議員
参議院議員
参議院議員
参議院議員
参議院議員

星野剛士
甘利明
あかま二郎
河野太郎
後藤祐一
阿部知子
本村賢太郎
義家弘介
島村大
松沢成文
佐々木さやか
牧山ひろえ
三原じゅんこ
三浦信祐
真山勇一
中西健治

平成 28 年 10 月 27 日

殿

厚木基地騒音対策協議会

会長（神奈川県知事）

黒 岩 祐 治

厚木基地における米空母艦載機の夜間連続離着陸訓練による航空機
騒音の解消等に関する要請

厚木基地周辺住民は、航空機騒音により、長年にわたり堪え難い苦痛を強いられており、神奈川県及び基地周辺市は、かねてより、このような航空機騒音問題の抜本的解決を求めてまいりました。

こうした中、平成18年5月の在日米軍再編協議において、騒音被害の主な原因である空母艦載機を2014（平成26）年までに移駐させることが日米両国政府間で合意され、その後、遅延が明らかとなり、平成25年10月には、日米両国政府間で、空母艦載機の移駐は2017（平成29）年頃までに完了することが確認されたところです。

この移駐完了時期とされる「2017（平成29）年頃」は間近に迫っており、移駐期限までに完了するかどうか、厚木基地周辺住民は注視しています。

また、恒常的訓練施設についても、平成18年5月の在日米軍再編協議では移駐の前提とはされていないものの、いまだに設置場所が特定されていません。

一方、移駐が実現するまでの間も、基地周辺の住民は、特にNLP^(注2)等の空母艦載機着陸訓練前後の激しい騒音や、墜落、部品落下、不時着等の事故の不安にさらされ続けなくてはなりません。

特に、平成24年5月には、空母艦載機の着陸訓練が3日間行われ、周辺住民は耐え難い苦痛を強いられました。また、米軍機事故は、一歩間違えれば重大な結果につながりかねません。

これまでの、三次にわたる騒音訴訟に引き続き、厚木基地第四次騒音訴訟においても、基地周辺住民が受忍限度を超える騒音被害を受けているとの司法判断がなされていることは、改めてその負担の深刻さを示しています。

ついては、厚木基地騒音対策協議会では、一日も早い騒音問題の抜本的解決を図るため、国の責任において、特に次のことを早急を実現するよう要請いたします。

また、文書にてご回答くださいますよう併せてお願いいたします。

注1：ロードマップ… 在日米軍再編協議において平成18年5月1日に合意された内容を記載した文書。正式には「再編実施のための日米のロードマップ」。

注2：NLP…Night Landing Practice の略

1 早期かつ着実に空母艦載機の移駐等を実施すること

- (1) 貴職におかれては、過大な基地負担を負っている地元住民の強い思いを受け止め、一日も早い移駐の実現のため、移駐に必要な施設整備を確実に進めるとともに、岩国飛行場における進入管制空域の調整など残された諸課題の解決に向けた米側との協議等に全力を尽くされるよう求めます。
- (2) 移駐の具体的なスケジュールや現在の進捗状況、移駐後の厚木基地周辺における騒音状況の予測について、「厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会」等を通じ、関係自治体に対し、継続的かつきめ細やかな情報提供を行うよう要請します。

2 恒常的訓練施設を確保すること

2009（平成21）年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することを目標とするとされている恒常的訓練施設については、貴職の責任において、早期に選定し、移駐実現までに必要な施設整備等を終えるよう、また、その見通しについて、速やかに情報を提供するよう要請します。

3 移駐実現までの間も、騒音問題の解決に積極的に取り組むこと

- (1) NLPの硫黄島での全面実施及びNLP直前の集中的訓練の硫黄島の活用等

貴職におかれては、人口密集地域にある厚木基地周辺住民の深刻な騒音被害の状況を深く認識され、NLPの硫黄島での全面実施及びNLP直前の集中的訓練における硫黄島の活用等について、積極的に米側と調整するよう、強く要請します。

その実現に向けて、

ア 本協議会が提案している、いわゆる「直結方式」^(注3)や硫黄島での予備日の設定等、必要な措置についての多角的な検討を行うこと

イ 支援態勢、施設の一層の拡充、整備を推進することを求めます。

- (2) 激しい騒音の発生が予想される飛行に関する事前情報提供

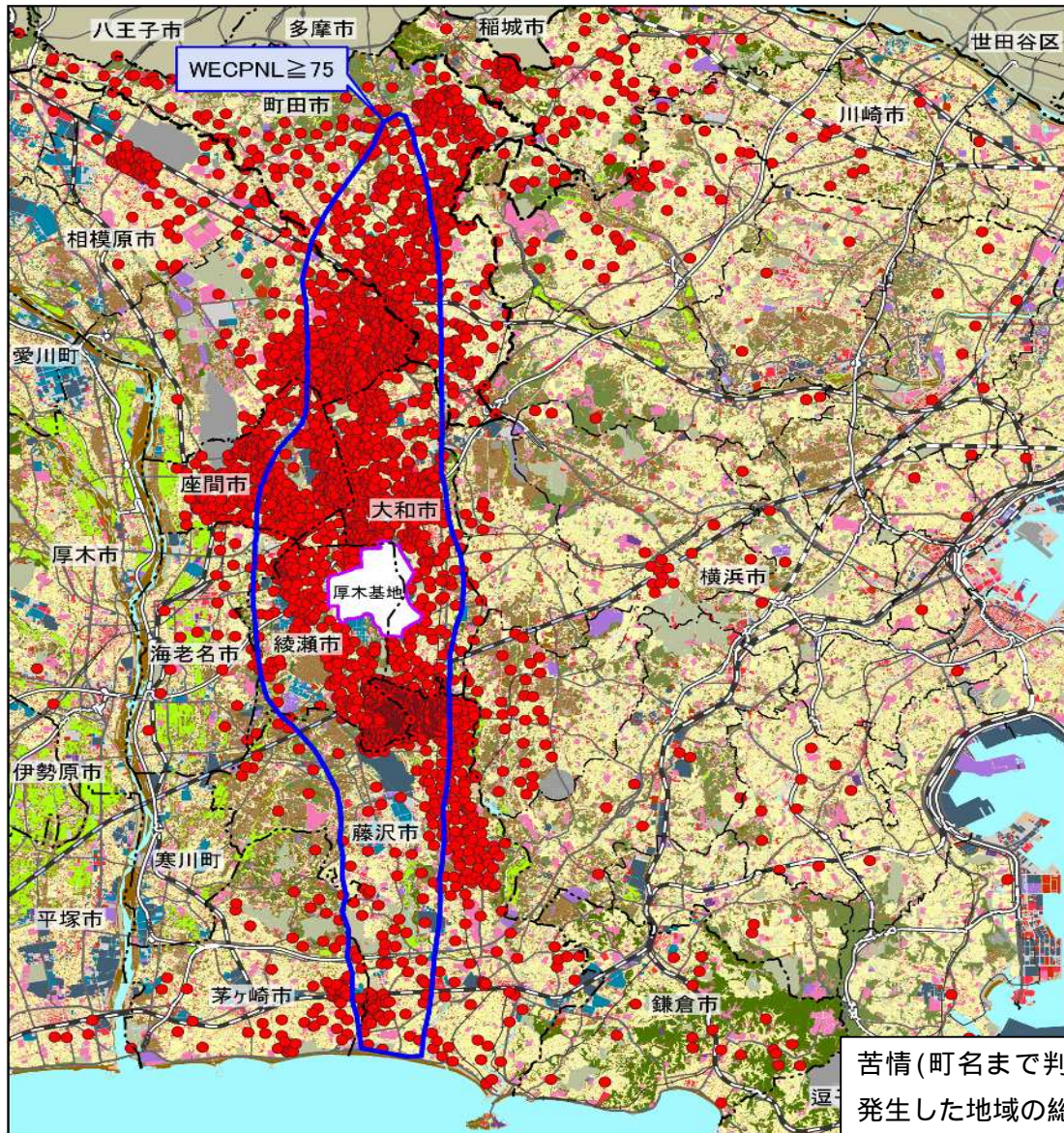
住民の苦痛を少しでも軽減・緩和するために、NLP等の空母艦載機着陸訓練に限らず、激しい騒音の発生が予想される飛行については、貴職の責任において、適時、的確な情報提供を行うとともに、住民への十分な説明を行うよう要請します。

注3：直結方式・・・空母艦載機の帰還と着艦を空母と硫黄島の間で直接行うとともに、NLPと通常訓練をすべて硫黄島で行う方式

騒音苦情の発生地点で見る周辺住民への影響

平成 26 年度に、県及び厚木基地周辺 12 市に寄せられた苦情 5,323 件の内、住所地(町名まで)が判明した苦情について、その発生場所を示した。(地図上の赤丸 1 つは、町名まで判明した苦情 1 件を表す。)

青い線は、国が実施した騒音調査に基づく WECPNL75 のコンターライン。

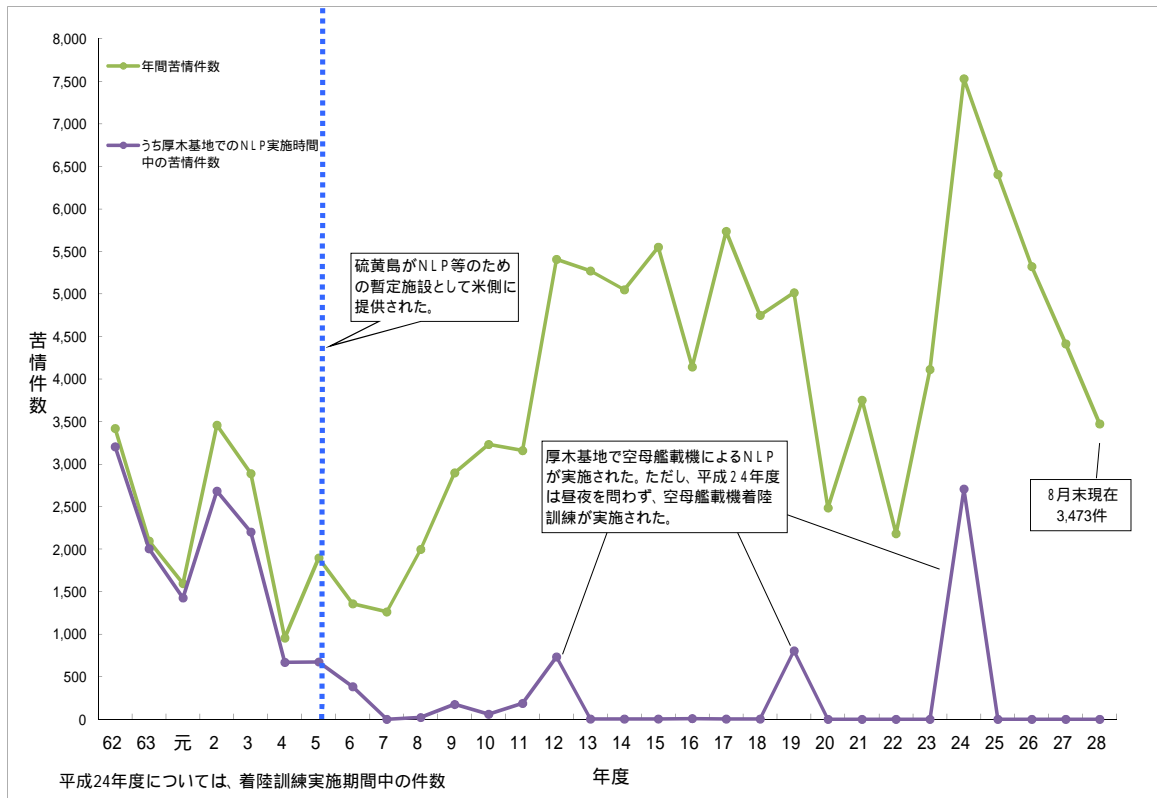


苦情(町名まで判明したもの)が発生した地域の総人口
約 300 万人
(平成 26 年 10 月 1 日現在)

- この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 20 万分の 1 地勢図を複製したものである。(承認番号 平 27 情複、第 361 号)
- 「平成 22 年度神奈川県都市計画基礎調査」及び「平成 24 年度東京都土地利用現況」を用いて作成。苦情発生地域の総人口について、横浜市、川崎市については、平成 26 年 9 月末日現在の統計。地図範囲外の苦情が 8 件ある。

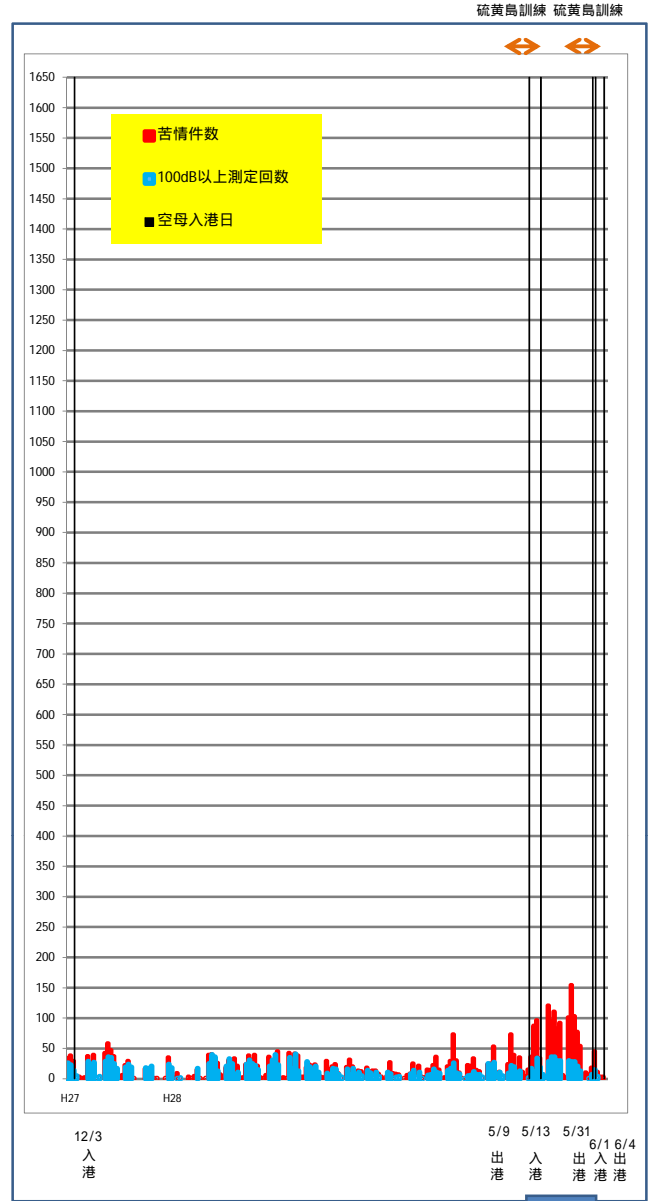
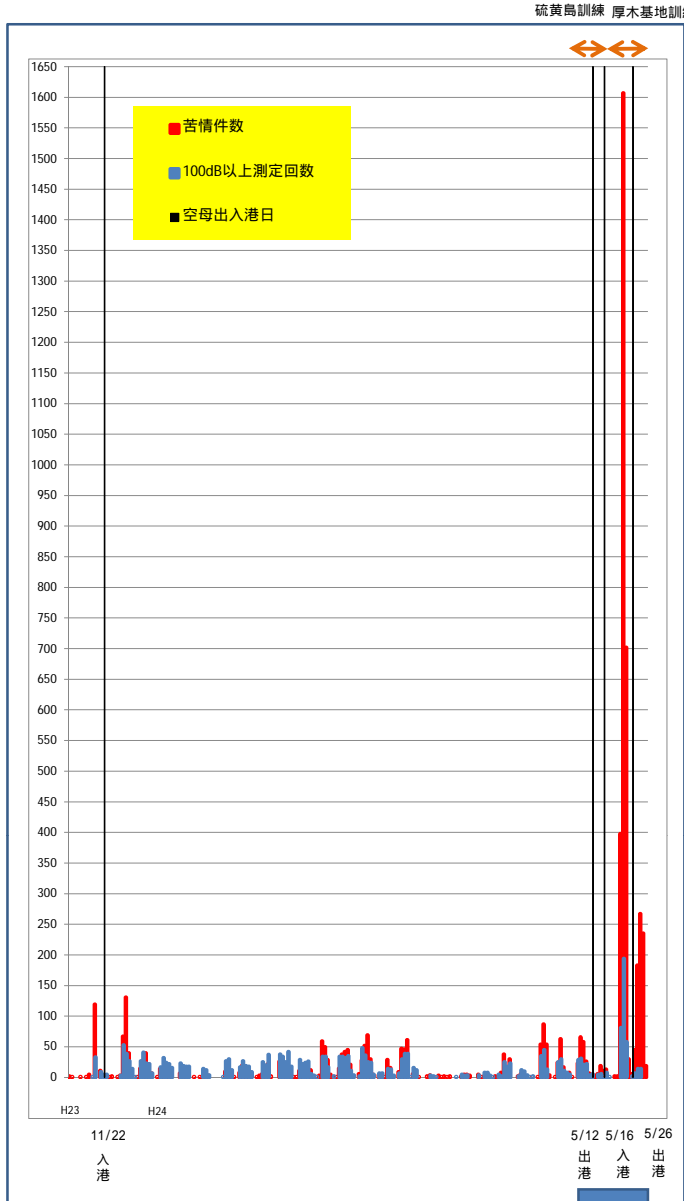
苦情を受けた自治体	大和	綾瀬	相模原	藤沢	茅ヶ崎	海老名	座間	横浜	町田	川崎	鎌倉	平塚	県	合計
苦情件数	417	768	655	464	110	34	423	104	531	59	18	7	578	4,168

(グラフ - 1) 年度別苦情件数及びNLP時間中の苦情件数



(グラフ5-1) 平成23年11月～平成24年5月
米空母ジョージ・ワシントン
入港前後の苦情件数

(グラフ5-2) 平成27年12月～平成28年6月
米空母ロナルド・レーガン
入港前後の苦情件数

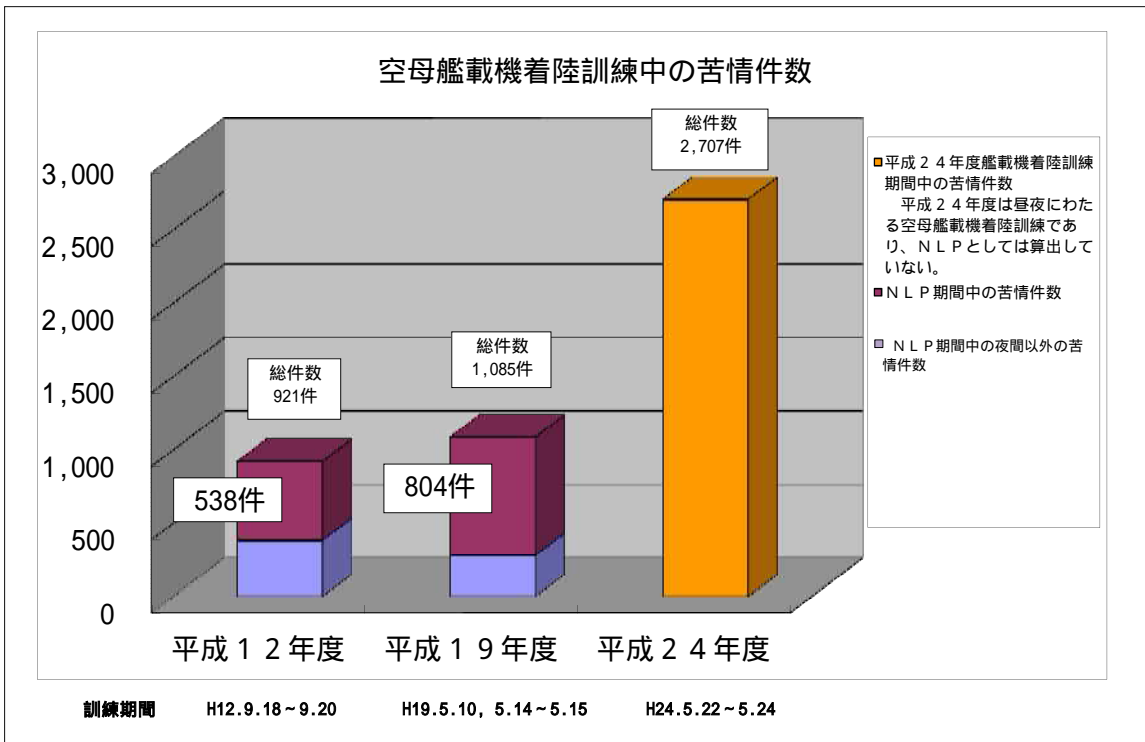


訓練場所	訓練日	苦情件数
厚木基地	5月22日	398件
	5月23日	1,607件
	5月24日	702件
	計	2,707件
硫黄島	5月9日～17日	145件

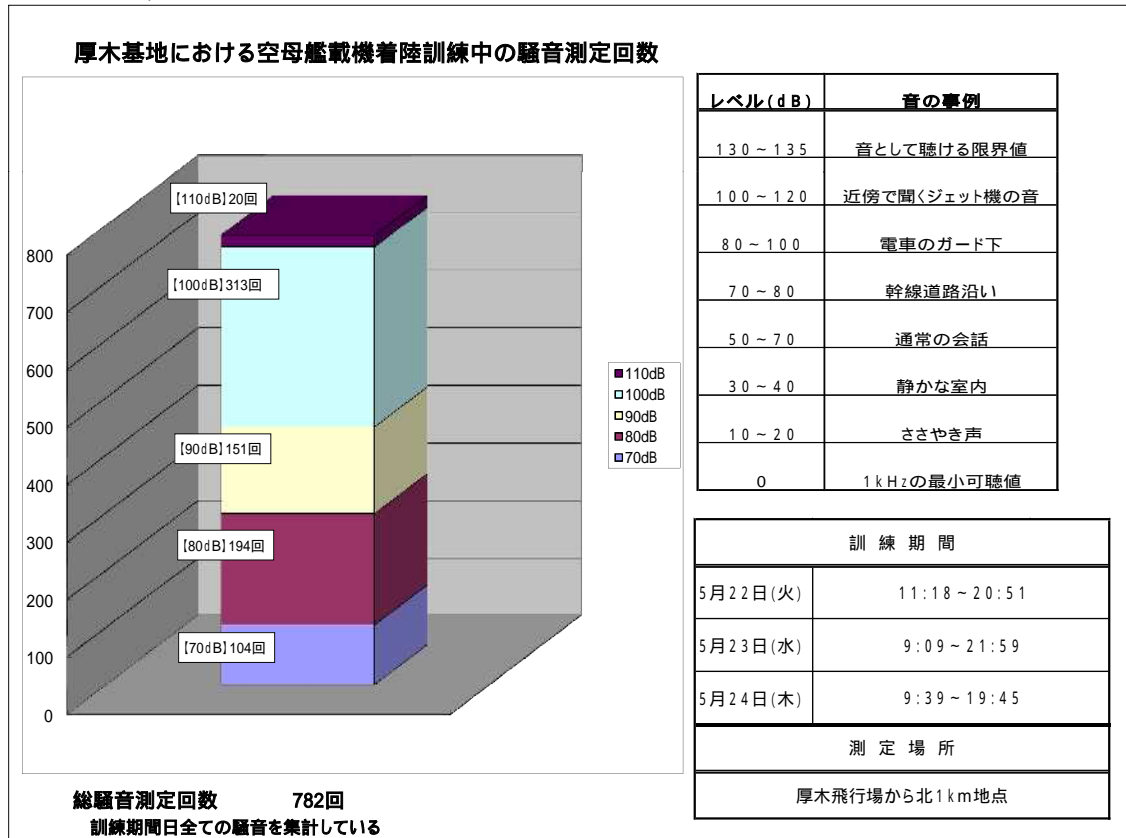
訓練場所	訓練日	苦情件数
硫黄島	5月4日～5月12日	338件
	5月28日～6月1日	80件

平成24年5月22日～24日の間は、空母運用上の都合により、厚木基地において訓練が実施され、苦情件数が2,700件以上に上った。

(グラフ - 3) 厚木基地における空母艦載機着陸訓練中の苦情件数



(グラフ - 4) 平成24年度厚木基地空母艦載機着陸訓練中の騒音測定回数等



厚木基地問題に関する近年の状況

平成 14 年 2 月	日米両政府間で、できる限り多くのNLPを硫黄島において実施することが了解された。
14 年 3 月	厚木基地でNLPが実施された。
14 年 5 月	デモンストレーションフライトが廃止された。
14 年 9 月	E A 6 B プラウラーからエンジンのパネルが落下した。
14 年 10 月	厚木基地でNLPが実施された。
15 年 1 月	厚木基地でNLPが実施された。
15 年 1～ 2 月	瀬戸内海最大の無人島にNLP訓練施設を含む防衛施設の誘致の動きがあったが、白紙撤回となった。
15 年 3 月	S H 6 0 ヘリから部品が落下した。
15 年 5 月	キャンプ座間所属のU H 6 0 ヘリが上智大学グラウンドに不時着した。
15 年 10 月	厚木基地でNLPを実施するとの通告があったが、初めて硫黄島での日程を延長してNLPを実施し、厚木基地では実施されなかった。
15 年 11～ 12 月	F A 1 8 F スーパーホーネット戦闘攻撃機 1 3 機が、F 1 4 トムキャットに代えて、配備された。
16 年 2 月	厚木基地でNLPが実施された。
16 年 7 月	厚木基地でNLPが実施された。 第五空母航空団所属のヘリから銃弾 2 0 0 発が落下した。
16 年 8 月	横田基地所属のヘリが、みなとみらい地区ヘリポート付近に不時着した。
16 年 10 月	F A 1 8 E スーパーホーネット戦闘攻撃機 1 3 機がF A 1 8 C ホーネットに代えて、追加配備された。
16 年 11 月	F A 1 8 C ホーネットからミサイルの羽根の一部が落下した。
16 年 12 月	F A 1 8 C ホーネットから部品の一部が脱落し、藤沢市内の工場の屋根に穴を開けた。
17 年 1 月	厚木基地でNLPが実施された。
17 年 2 月	キャンプ座間所属のヘリが伊勢原市の成城学園グラウンドに不時着した。
17 年 4 月	飛行を終えて厚木基地に戻った第五空母航空団所属の艦載機 2 機からハシゴの一部等の部品が紛失しているのがわかった。
17 年 5 月	厚木基地でNLPが実施された。 厚木基地所属のヘリが部品を紛失した。
17 年 7 月	藤沢市片瀬海岸に厚木基地所属のヘリが不時着した。
17 年 10 月	厚木基地でNLPが実施された。 在日米軍再編協議において、空母艦載機の移駐案が合意され、「日米同盟：未来のための変革と再編」(中間報告)が公表された。
18 年 1 月	約 2 0 年ぶりに住宅防音工事区域の見直しが行われた。
18 年 5 月	在日米軍再編協議において、2 0 1 4 (平成 2 6) 年までの空母艦載機の移駐が合意され、「再編実施のための日米のロードマップ」(最終報告)が公表された。 厚木基地でNLPが実施された。

18年 5月	第五空母航空団所属のC 2 プロペラ機が航空機の部品の一部を落下した。 在日米軍再編に関する基本方針が閣議決定された。
18年 7月	厚木基地第三次騒音訴訟の控訴審判決があった。 (W E C P N L 7 5以上の損害賠償請求が認められるなど、原告側の一部勝訴)
18年 10月	厚木基地でN L Pが実施された。 第五空母航空団所属のヘリから懐中電灯が落下した。
19年 2月	F A 1 8 が部品を紛失した。
19年 5月	厚木基地でN L Pが実施された。
19年 6月	横田基地所属のU H 1 Nヘリが横浜市金沢区内の公園に不時着した。
19年 12月	厚木基地第四次騒音訴訟が提起された。
20年 6月	横田基地所属のU H 1 Nヘリが相模川河川敷に不時着した。
21年 2月	綾瀬市上空でF A 1 8 Eスーパーホーネットからゴム製シールが落下した。
22年 1月	F A 1 8 Eスーパーホーネットから金属製部品が落下し、綾瀬市内の民家の一部を破損した。
22年 3月	F A 1 8 Cホーネットから金属製部品が落下した。
23年 2月	寒川町上空で第五空母航空団所属のヘリから金属製ブイが落下した。 平塚市内の相模川河川敷に厚木基地所属のヘリが緊急着陸した。
24年 2月	E A 6 B プラウラーから機体外部パネルが落下した。
24年 3月	E A 6 B プラウラーの後継機として、E A 1 8 G グラウラーが厚木基地に配備された。
24年 5月	厚木基地で、昼夜を問わず空母艦載機による着陸訓練が実施された。
25年 1月	防衛大臣政務官が来県し、地元自治体に対し、空母艦載機の移駐の遅延等について説明を行った。
25年 2月	引き続き、2014(平成26)年までに移駐することを強く求め、併せて国や米側が、自治体へ情報提供等を行うための枠組みを早期に構築するよう、防衛大臣及び外務大臣へ要請を行った。
25年 5月	「厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会」が設立された。
25年 10月	日米両国政府間において、空母艦載機の移駐が、2017(平成29)年頃までに完了することが確認された。
25年 12月	第五空母航空団所属のM H 6 0 Sヘリが三浦市三崎に不時着した。
26年 1月	綾瀬市内で、F A 1 8 Eスーパーホーネットから金属製部品が落下した。
26年 5月	厚木基地第四次騒音訴訟の地裁判決があった。
27年 7月	厚木基地第四次騒音訴訟の高裁判決があった。

住民から寄せられた騒音被害に関する意見

平成27～28年に県及び各市へ寄せられた意見の中から一部について掲載します。

航空機の飛行や騒音について

飛行内容に関する意見

住宅地の上を低空で飛行し、編隊飛行や急旋回もして危険だ。低空を飛ぶならば、住宅地ではなく、海の上を飛ぶようにしてほしい。

お盆や、終戦記念日にまで空母艦載機が飛んでいた。日本人にとっての意味を米軍にしっかり伝え、その日だけでも配慮してほしい。日米安全保障体制の意義は理解しており普段は我慢しているが、こういうことがあると、そのような気持ちになれなくなる。

3分に一度以上の頻度で飛行し、爆音と地響きで戦場のようだ。このまま続いたらおかしくなる。

何機も編隊で飛行すると、とてもうるさくなる。せめて、1機ずつ飛んでほしい。また、高度を上げて静かに飛ぶなど配慮してほしい。米軍の存在意義はわかるが、配慮がない。

ジェット機が飛び立ったと思ったら、その合間にヘリが飛び、一日中うるさい。近所の人と、こんなところに住み続けるのは嫌だと話している。

朝9時頃から突然、ジェット機が10機ほどまとまって飛行し、ミサイルかと思い、恐怖を感じた。

土日祝日は、家族の団らんの日であり、一切飛行しないようにしてほしい。

夜10時前だからよいということではない。子供は寝る時間だ。夜くらい静かにしてほしい。

防音工事の対象区域でないのに、家の近くの上空でジェット戦闘機が何度も周回している。対象区域外での飛行は禁止してほしい。少なくとも対象区域にしてほしい。

生活被害に関する意見

生まれたばかりの赤ちゃんが、やっと寝たのに、騒音で起きてしまう。住んだことを後悔している。

騒音のせいで、家で勉強が出来ない。

子どもが寝ている時間にも飛行しており、重低音が耳に残って眠れなくなっている。子供が難聴になったら補償してくれるのか。登園中の幼稚園児も怖がって泣いている。

夏場は窓を開けている分、騒音がじかに耳に入り非常に耳障りで、難聴になりそうだ。

騒音で食卓での会話が妨害される。低空飛行時にはテレビにブロックノイズが出る。

騒音で、踏み切りやクラクションの音が聞こえず、車が近づいてきたのも分からず、危ない。

私立高校の入試日にも飛行している。子供たちのことを考えてほしい。

大事な電話が聞き取れず、支障が出ている。防災無線の内容も聞き取れず、命に関わる。

仕事中、取引先と電話していて、騒音のため何度も聞き直していたら、相手の気分を害してしま

い、お宅とは取引しなくてもいい、と言われたこともある。

朝飛び立ったと思ったら昼に戻ってきて、また飛び立っていく。夜勤で、昼寝たいのに寝れない。

健康被害に関する意見

私は障害を抱えており、精神が不安定な時にテレビが聴こえなくなるほどの音量で飛ばれると、驚いて息が苦しくなる。

心臓が悪いため、ジェット機が飛んで食器棚や窓がガタガタ揺れるたびに、動悸がして横にならなければならない。

あと5年くらい働きたかったが、騒音で体がもたず夜勤で働き続けられなかった。

風邪をひいても寝込んでいられないほどにうるさい。

早朝からうるさいのだから、せめて、夜くらい静かにしてほしい。睡眠妨害だ。

情報提供に関する意見

騒音について、国に電話をしても、何も対応してくれないし、何も教えてくれない。誰が把握していて、どうしたら対応してもらえるのか、教えてほしい。

艦載機は移駐するとの話を以前から聞いているが、相変わらずうるさい。どうなっているのか。

艦載機は移駐しても騒音は変わらないとの報道もあった。米軍に我が物顔で飛ばれて、どうせ変わらないのではないか。

長年住んでいるが、最近、自宅の上空を通過する飛行機が増えていて、低空を続けて数機飛んでいるのも見かけた。明らかに以前より多いが、どうしてなのか知りたい。

騒音があまりにもひどい。事前に飛行計画を示してほしいし、いつまで続くのか知らせてほしい。

引っ越してこようと思って下見をしていたら、騒音に驚いた。このような騒音があるなら、住むことはできない。どこなら大丈夫なのか教えて欲しい。

飛んでいるジェット機が、何のために飛んでいるのか、米軍のものなのかさえわからず不安だ。

国の住宅防音工事に関する意見

申請は受理されたが、工事までに最短で2年かかるという。早く工事をして欲しい。移駐も近いので心配だ。

住宅防音工事を2回もやったが、最近は意味がないくらい騒音が酷い。騒音実態にあった防音工事の助成をしてほしい。

防音しても全く意味がない程うるさい。夜中も飛んできて家族みんな起きてしまう、耳栓をして寝ても耳の奥に響く音と地響きがする。耳鳴りと動悸で頭が狂いそうになる。

我が家は平成10年築で助成対象外だ。騒音の実情にあった対象の設定を希望する。